

(訪問資料②は、全てA4片面印刷とする。)

平成28年度 学校訪問資料②

学校名 胎内市立きのと小学校	Tel 0254(46) 2025	学級数 7	研修日 ① 5月 27日(金) ② 月 日() ③ 月 日()
----------------	-------------------	-------	-----------------------------------

1 取組分野 (1枚中の1枚目)

共に尊重し合う人間関係作り (豊かな心の育成 いじめや差別のない学校)

2 前年度の成果と課題

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な場面を設定してソーシャルスキルを行ってきた。特に、昨年度新たに取り入れた文化祭でのなかよし班作品鑑賞では、友達作品を誉め合う、認め合う活動を通して、丁寧な言葉づかいに関して意識づけることができた。 ○「ふわふわ言葉」と関連づけて「ちくちく言葉」に関しても関連づけて指導してきた。両方を意識することで、児童も「相手を思いやる言葉づかい」について意識することができるようになってきている。 ○児童が楽しみにしているなかよし班活動をもとにしたふれあいの場合は、友達関係を築くためにはとても有効であった。「友だちと仲よく活動する」評価項目においては、昨年度末評価で、児童教師とも高い評価を得ていることから日常化を図り、平成28年度は、成果目標を一本化し、重点的に取り組んでいく。また、共に尊重し合う人間関係作りを支える基盤として人権教育、同和教育の授業実践を継続するとともに、ピアサポートプログラムを取り入れた縦割り班活動を充実させる。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○ソーシャルスキル等、具体的な取り組みを実施した後は、「相手を思いやる言葉づかい」を意識する児童は多い。昨年度末評価では、95%近い児童が肯定的評価をしている。しかし、日常的にそのような言葉づかいをしている児童が多いとは言いきれない。また、個人差も大きく、言葉づかいが原因で、些細なトラブルが起きても少なくない。このことから、日々の丁寧な言葉づかいが相手への思いやりに繋がるようにする必要がある。 ○言葉づかいに関しては、学校内だけで改善できるものではない。学校での取り組みや成果を家庭や地域に伝え、広めていくことも大切である。あいさつを含めた言葉づかいについて、今以上に家庭との連携を図っていくことが大切である。

3 評価項目・評価基準

	成 果	教 育 活 動	運 営 活 動
評 価 項 目	【年度当初】 ○相手を大切にできる言葉づかいが自然にできる児童を70%以上にする。 (学期末の児童アンケートと教師の見取りで評価)	【年度当初】 ○相手を大切にできる言葉づかいについて、月の生活目標に合わせた言葉づかいのSSTと自己評価を年間3回以上実施する。	【年度当初】 ○学習・がんばり週間のカードに言葉づかいの項目を設け、親子での自己評価の活用を図る。
評 価 基 準	A：70%以上 B：60～69% C：60%未満	A：年間3回以上全学年が実施 B：年間3回以上4～5学年が実施 C：年間3回以上3学年以下が実施	A：年間3回以上実施 B：年間2回実施 C：年間1回以下実施

